



吉備中央町

議会だより

第41号

平成27年7月20日発行

発行／岡山県吉備中央町議会

〒716-1192

岡山県加賀郡吉備中央町

豊野1-2

TEL.0866-54-2081

FAX.0866-54-1366

編集／議会広報編集委員会

TOPICS

- ふるさと納税2億円を増額…………… 2
- 7議員が町政を問う…………… 3
- なんと読むのかな…………… 12



初夏の高原を歩く（岩倉山ウォーキング）

ここが聞きたい

7議員が一般質問

一般質問とは、町の政治・行政全般にわたり町長の方針や見解、説明を求めるものです。議員は質問により自己の意見を表明できます。

「議会だより」では1議員25分の質問を、原則として議員自身が900字程度に要約したものを掲載しています。全体をお読みになりたい方には、議会事務局で議事録を公開しています。

頁	質問議員	質問要旨
P 4	石井 雅之	1. 子ども・子育て支援事業計画について 2. 少子化対策事業・にこにこ出産祝金事業について 3. 教科書採択における文科省通知について
P 5	難波 武志	1. 防災対策について 2. 公共施設のトイレの改修について 3. 廃校となった中学校の跡地利用の現状と見通しについて
P 6	日名 義人	1. 地方創生について ①「総合戦略作成」の現状について ②「総合戦略に学校給食、農産物販路拡大事業を」について ③「総合戦略・町内のネットワークづくり」について
P 7	森下 誠一	1. まち・ひと・しごと創生法への対応について 2. 中山間について
P 8	西山 宗弘	1. 中学校について 2. 有害鳥獣について 3. 自治組織について 4. 農地の保持について 5. 町の施策や計画等対策について 6. 道の駅について
P 9	山崎 誠	1. 出生者年間100人実現の施策について 2. 高レベル放射性廃棄物の自治体向け説明会について 3. 学校給食への町内産食材の使用状況について
P 10	新谷 富彦	1. 「中間管理機構」について

(質問順はくじ引きによる)

ふるさと納税 2億円を増額

6月定例会

平成27年第4回定例会は6月9日開会。条例関係6件、補正予算関係2件、過疎計画の一部変更の9議案と、諮問1件、繰越明許費報告が上程された。審議の結果それぞれ原案どおり可決され、24日閉会した。

条例改正

◎スクールバスに関する条例の一部を改正

問 以前町民から小学校のスクールバスの停車場変更の要望が出た。変更すると全体からいろいろ問題が出てくるので変更できていない。柔軟な対応をすべきではないか。

答 小学校のスクールバスは規則で定めている。今回は条例の定めにも適合しており、一部の路線

を延長した。これからも柔軟な対応をしたい。

◎急傾斜地崩壊対策事業負担金徴収条例の制定

問 防止対策で事前に対策をする時に、県、町、受益者が10分の3以内で柔軟な対応ができるか。

答 27年度は、災害前の通常対策急傾斜地崩壊対策事業が5事業、災害が発生した場合の事業が9事業あり、全て県事業、10分の3以内で受益者負担は軽減されている。

◎国民健康保険税条例の一部を改正

問 保険税は引き下げで良いことだが、国保会計は大丈夫なのか。

答 近年定期健診などで早期発見早期治療、また、ジェネリック医薬品等で医療費の抑制になり、26年度3.2%減少し加入者の負担軽減とした。歳入は約1600万円減

少するが、国保会計に負担はかからない。

一般会計補正予算

ふるさと納税などの増加に伴い、3億7338万円追加補正された。

問 ふるさと納税者の寄付人数と地域は。
答 1万6771人、総額で3億7700万円に達した。地域では関東が一番、北海道も多い。



おいしいお米、全国に

問 子育て世帯臨時特別給付金での申請漏れはないか。

答 7名が未給付で再三案内したが不要であると申請されない。

問 保育士派遣負担金事業は。

答 幼保連携に伴う幼稚園と保育園の人事交流で双葉保育園の人事交流派遣事業。

諮問

◎人権擁護委員候補者の推薦

任期 平成27年10月1日
菅野 輝美
平成30年9月30日

4月臨時議会

4月23日臨時議会が開かれ、委員会に付託されていた子育て推進課を新設する課設置条例の一部改正を原案どおり可決。



難波 武志

問 自然災害への対応はどうか

答 自主防災組織の強化育成を

問 安全な町とはいえ、いつ災害が起きてもおかしくないと考え、日頃から自宅周辺の危険箇所や避難場所、避難経路等の確認

答 山本町長 災害が発生した場合の対応はどのようなものか。また、日本中で心配されている巨大地震では岡山県においても県南部の地域では津波等の被害が予測されている。地震や津波で被害が発生した場合、避難者の受け入れ等の対応を尋ねる。

問 世界中で地震や火山の噴火、大雨による洪水等の災害が発生している。日本でも火山が爆発したり、地震が発生する等自然災害に対する不安が高くなっている。最も自然災害の少ないのは岡山県、特に吉備中央町は少ないと言われている。しかし、過去はそうであっても、今後も絶対ないとは言えない。日頃から危険地域の点検や町民への周知などの予防対策が必要である。

答 町長 町内には数多くの公共施設があり、町内外の多くの人が施設を利用している。施設によっては和式だけで洋式のトイレが無いので、足の悪い人は大変不便をしている。多くの人々が利用する町の施設のトイレには、和式だけでなく洋式トイレの設置は必要と考えるが、このことについて尋ねる。

問 トイレの改修が必要

をすることが重要である。町として地域防災力の向上を目的とした防災訓練、危険箇所の周知、防災出前講座、ハザードマップの作成等の支援を行い自主防災組織の強化を図っていきたい。また、本年度は地域防災計画の見直しを図るとともに、土砂災害に関する防災マップを新たに作成し配布する。

問 旧中学校の現状と見通し

すい環境整備について、行政として取り組む必要がある。多くの方が利用する公共施設のトイレは、費用を要することではあるが、できる所から順次スピード感を持って対応する。また、簡易便所の準備も考える。



早い活用が待たれる旧中学校

答 町長 竹荘中学校と旧大和中学校の2校は使用の希望者等の話はあるが、まだ利用が決定していない。2校の跡地利用は現在どこまで進んでいるのか。また、今後の見通しはどうか尋ねる。

問 廃校となった4校の中学校のうち2校は決まっている。残りの旧

問 子育て支援事業具体策は

答 ニーズに合わせ進めたい



石井 雅之

問 少子高齢化は、全国的にも町にも重大な問題である。町が3月に策定した「吉備中央町子ども・子育て支援事業計画」の実施に当たっては、保護者の意向の確認や既存の教育機関との連携など、さまざまな対応が必要と思われるが、現在進められている事業の具体的方針や実施方法はどうか。

答 山本町長 支援事業計画は、「子ども子育て会議」において意見交換を行いながら策定をした。最近は少子化のため、親子とも交流の場が少なくなっている。計画に沿って、できることから行っている。認定こども園も、統合ありきではなく、早い段階でモデル園を開設したい。



元気に育ってね

問 4月から始まった「ここにこ出産祝金事業」の支給対象は、二人目以降の出産が対象とのことだが、家庭の状況は子連れの再婚者など、いろいろなケースが考えられる。また、法律上の夫婦に限られるのか、尋ねる。

出産祝金の対象家族は

その他については具体的な方針や内容の検討には至っていない。地域のニーズに合った環境整備を進めていきたい。

問 平成23年6月定例会の一般質問で、「採択地区協議会で推薦教科書が示されるが、これは『絞り込み』ではない」との答弁があった。

答 津島教育長 町を含む旭東地区採択協議会では、観点別の評価はあるが総合的には評価を付けない資料を参考に教科書を選定している。いわゆる絞り込みは行っていない。

教科書採択の文科省通知は

答 片山子育て推進課長 法的な婚姻の有無にかかわらず、世帯で養育している子供がある場合は、新たに生まれた子供を次の子として支給する。今後さらに検討を重ね、制度の充実を図りたい。

問 現在、第3子に支給が3件、第2子が2件あった。出生率向上・人口増につながることを期待している。

答 町長 支給の詳細は規則で定められているが、児童を養育している世帯に新たに生まれた子供があった場合は、祝金の対象となる。

問 町の子供たちにより良い教科書を選定するのは責務であるので、きちんと確認して採用したい。

答 町長 教科書の採択は、教育委員会においてより適した教科書を選定していると考えている。

問 協議会では、全ての教科書を対象に協議をし、不適切なものを排除していき、最終的に一つの教科書を選定している。

答 町長 協議会では、全ての教科書を対象に協議をし、不適切なものを排除していき、最終的に一つの教科書を選定している。



森下 誠一

問 町職員のシビックプライドは

答 誇りと自信を持って仕事

問 地方創生には、シ
ティプロモーションと愛着
心は大事。加茂大祭・吉川
当番祭など文化行事があ
り、地域住民は愛着心が強
い。職員は町が好きで町の
未来を心配している。誇り
を持たないと前向きな仕事

答 山本町長

問 地方創生の目標は
人口減少を克服する
こと。農村への関心が高い
都市住民が増え、「田園回
帰」と言われる現状では、
社会増加は転出を抑制し転
入を促進することで可能。
地方創生に欠かせないのが
シティプロモーションで、
既存住民が地域に愛着心を
持つことが大事、職員は町
に愛着心を持ち、不便や、
不平不満を理由に町外居住
するようでは、シビックプ
ライドがあるとは言えない。
地方創生での総合戦略で
の企画的な取り組みはでき
ているが、シティプロモー
ションへの取り組みができ
ていない。約40の自治体
が取り組み、成果を上げて
いる。

答 山本町長
地方創生には、シ
ティプロモーションと愛着
心は大事。加茂大祭・吉川
当番祭など文化行事があ
り、地域住民は愛着心が強
い。職員は町が好きで町の
未来を心配している。誇り
を持たないと前向きな仕事
う。また、有識者会議を設

答 大塚企画課長

総合戦略推進本部
を設け人口ビジョン総合戦
略の策定、推進、検証を行
う。また、有識者会議を設



汗を流して農地を守る

け、住民代表を含む専門知
識を持つ有識者で、幅広い
見地からのアンケートを集
計し、町民や各種団体から
の提案を有識者会議で検討
したい。

中山間直接支払

問 新たな中山間直接
支払は緩傾斜・急傾

斜・超急傾斜の三段階に
なっているが、この区分を
明確にして公平さを保って
いたきたい。また、畦畔
の管理ができていない耕作
地があり、隣地の方が困っ
ているとの相談も数件あつ
た。この事業は、中山間地
域で耕作する農家にとって
かけがえのない制度で、職
員は毅然とした対応をし
て、公平さを保てないか。

答 町長

この事業は、農業
生産性の不利益性がある中
山間地域において、耕作放
棄地の発生防止や水源管理
等、多面的機能維持管理の
増進を図る。前回は212

協定の取り組みがあつた
が、高齢化等により多少の
減少。
畦畔の草刈ができていな
いとの指摘だが、現地確認
時に担当課と地元代表者と
で現地確認をして指導して
いる。
この事業を有効に使っ
て、耕作放棄地の解消と環
境美化につなげたい。

答 小室農林課長

超急傾斜農地の保
全と、生産される農産物の
販売促進などに取り組む場
合交付金が加算される。
管理不足農地は現地確認
時に代表者の方をお願いし
ている。

問 現地確認での指導
の仕方に関係がある
と思われる。

答 農林課長

職員には現地確認
の指導を徹底し、各協定で
より良い管理ができ、この
制度が長続きするように指
導をしたい。

問 地方創生の原点は

答

総合戦略は合意形成が大切



日名 義人

略を元気で住みやすい、若
い世代が増え、生き生きと
活躍できる町づくりの第一
歩としたい。町民、企業・
事務所、各種団体の要望を
聞き、総合戦略に反映する
ことで、町民全面参加・合
意の総合戦略にしていきたい。

問

全国の地域版総合
戦略作成の多くが

「交付金獲得競争の様相」(よ
り早く、国に気に入られる
もの)「行政内部だけで決
めているが、地域を磨き、
人の魅力を高める、真の地
方創生はここから始まる」
と明大・小田切教授は記し
ている。町は、「人・地域」
を結集した総合戦略を。

答

山本町長

「交付金目当てで
より早く、行政主導で」等
全く考えていない。総合戦

問

本年は食育基本法
公布から10年だが、

農業立町の町の学校給食の
現状を聞くとともに提案。
①要旨は「学校給食を地域
ぐるみで進める食育の場」
に。そして、地元産食材全
面採用、農家の組織化と参
加、給食費の公費負担、従
業員の安定確保、調理が見
える自校方式、全校栄養教
諭の配置などを実現(先進
地今治市)。また、多様な
家族農業、新規就農者支援

答 町長

も提案したい。
②農産物(米、野菜、果物
など)の販路拡大(京阪神
を視野に本格的市場調査と
企画化)策確立を。この二
つを「町の魅力アップ」策
と捉え「総合戦略」に位置
付け構想化を。

全体で約1億40
00万円規模。うち、保護
者負担(給食費総額)約4
690万円で職員負担も。
町が人件費6500万円、
維持管理費に2500万円
を予算化している。栄養教
諭3名(正2・臨1)調理
員の確保は非常に苦慮して
いる。
①学校給食に美味しい、安
心安全な地元食材の採用
は、地産地消からも、地元
愛を育む上でも大切なこ

と。今治市は、食糧の安全
性と安定供給体制を確立す
る都市宣言、食と農の町つ
くり条例を制定し、地産地
消と食育を推進している。
給食のパンも地元小麦使用
と聞く。町でも美味しい米
を使った米粉パン活用も含
め地産地消を進めていく。
食育・子育て世代応援から
見ると自校方式、給食費の
意義あることだが財源が問
題か。
②米価の大幅な下落とその
常態化の中で「ふるさと
米」の施策は農家収入の安
定化に寄与。ここで構築し
た繋がりを最大限生かし販
路拡大を図りたい。多くの
町民が道の駅、直売所に農
産・加工品を出荷されてい
るが、商品力・販売力の向
上も大切なこと。また、岡
山・鳥取両県の東京新橋の
共同店(アンテナショップ
「ももてなし館」)の活用
でPRも進めたい。また、
総合戦略への位置付けは研
究していく。

答 町長

8市5町で結成の
岡山・連携中枢都市圏の委
託団体に加わっている。(拠
点都市と周辺市町村が協定
を結び、都市圏のビジョン
策定。高齢化・人口減少下
での持続可能な地域社会の
構築を目指すもの)
町は医療サービス、広域
公共交通の連携、地域資源
の掘り起こし周遊型観光な
ど連携を要望していく。
町内では交通手段を持た
ない方への行政サービスの
在り方や、子育て世帯の悩
み解消に役立つ集い・交流
等も課題となる。地域の小
さな拠点と庁舎間、吉備高
原都市そして岡山市との交
通網の整備が重要課題と捉
え、総合戦略や総合計画に
盛り込んでいく。

問

連携中枢都市候
補・岡山市との関係、
吉備高原都市の位置付け、
町内の小さな拠点とネット
ワークなどの在り方等は戦
略構想の中で欠かせない基
本的事項、現時点での考え
方を尋ねる。



山崎 誠

問 核廃棄物処分場は拒否を 答 持ち込ませる考えはない

問 政府は5月22日、原発から出る高レベル放射性廃棄物の処分地選定について、従来の公募方式から国が主導して有望地を選定する方式に変更し閣議決定した。

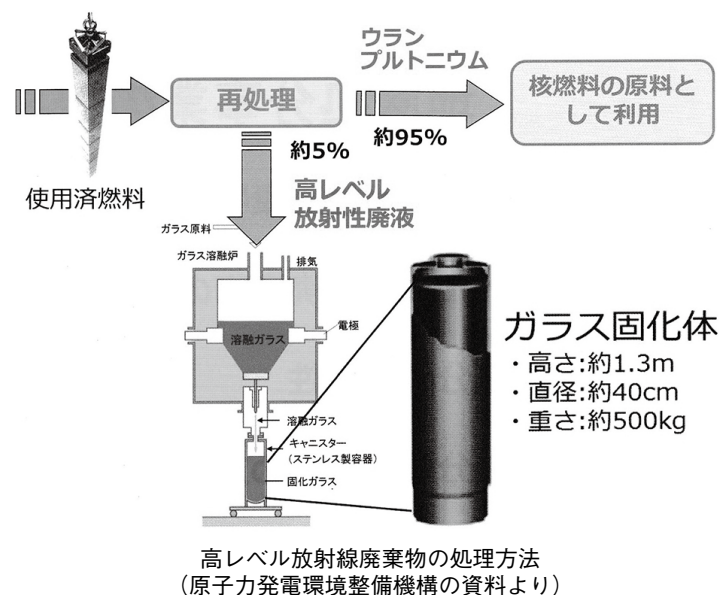
それに伴い、経産省資源エネルギー庁は6月2日、岡山でも自治体向け説明会を開いた。

県内では16自治体に参加し、5市5町2村が不参加である。

答 ①町が参加した理由及び出席した担当課。
②県は参加要請していないとのことだが、いつ、どこから参加要請があったのか。
③説明会は非公開で開かれた。非公開で開かれたことに対する見解。
④説明会の内容。また資料は公開すべき。
⑤自治体向け連絡会があるのか。町は加入しているのか。
⑥県は一貫して「県民が不安を覚える施設を誘致するつもりはない」と表明して

おり、町議会は2011年12月「脱原発宣言」を決議している。核廃棄物処分場の拒否を明確に宣言すべきである。

答 ①情報収集のため住民課が出席した。
②5月13日資源エネルギー庁からメール配信があったが届いておらず、28日経産省から電話で出欠の問い合わせがあった。
③当初の案内に非公開との説明はなかった。
④資料公開に問題はなと思う。
⑤連絡会はいし入会もしていない。
⑥町民が安心して暮らせるために、核廃棄物を持ち込



用割合はどのように推移しているか。

答 ①県内産品使用の県平均は25年度52%、26年度54%。町は25年度48%、26年度63%。うち町内産は25年度28%、26年度42%と増えている。
②平成26年度の町内産品の使用割合。米は従来から100%。パツキはあるが、個々の産品も少しずつ増えている。
③平成26年度から米飯を1回増やし週4回にしている。肉や野菜も県内産、町内産を優先して使うよう努める。

他に出生者数100人実現の施策について質問した。



西山 宗弘

問 スクールバスの運用は 答 乗降は定期バス停が基本

問 中学生について次の4点を尋ねる。
①生徒のスクールバスの乗降は身近な場所で行えるのか。
②バス通学に対しての苦情の対応は。
③生徒の研修の費用は。
④高校学区問題への検討はしているのか。

答 ①定期バスの乗降場を基本としている。
②運行についての苦情は業者に申し入れる。生徒へはモラルの指導をしている。



招かざるサル

③1年生は県内のためスクールバスを使用しているが、2年生は県外のため業者バスを使用、部活等はスクールバスを使用している。

答 ④県の教育委員会等へ度々陳情をしているが、思うように進んでいない。今後も繰り返し要望していく。

問 有害鳥獣(サル)対策はイノシシ等の有害鳥獣に対しては年々成果が出ているが、サルについてはあまり効果が見られない。効果のある対策はどうか。

答 町長 決定的な対策は無く、収益の減少や農家の意欲の減退など頭の痛い問題である。高梁市とも何度も協議を重ねている。また、新たな事業も取り入れている。

答 町長 防護柵の補助の拡充や里山整備に対する補助事業を実施している。

問 検討委員会の答申も出て、統一へ向けての取り組みも進んでいると思うが、交付金により組織の負担が多くなっている地域もある。どのように考えているか。

答 町長 高齢化や小規模な地区では負担が多くなりすぎていると考える。

問 農地の保持

答 町長 農業後継者の減少、高齢化、農業所得の低下の影響もあり、荒廃地(農業放棄地)が増えているが、固定資産税等を動かさずに農地を守る対策はないか。

答 町長 国や県も重要な問題として取り組んでいる。これ以上増やさないため、中間管理機構を立ち上げ、意欲ある若者に耕作を依頼する。また山際等の条件の

自治組織について

悪い農地は国として対応するよう要望したい。

町の施策や計画

問 国や県からの交付金等のばらまきに対し、名目上行っているものが多く感じられる。町民の意見を多く取り入れていたいただきたいが町長の考えを尋ねる。

答 町長 過疎計画、総合計画等で人口増、地域の活性化を目指した計画等を抜本的に見直し、町民の意見を取り入れ、町民に反映した戦略にしたい。

道の駅の駐車場

問 道の駅かようの大型バスなど駐車場整備の見解を尋ねる。

答 町長 いろいろな方策を検討しているが多大な費用がかかるため、国や県に要望しながら関係機関と連携し取り組んでいく。

追跡

あの時の質問
どねんなったとる？

過去の一般質問の追跡調査を行い、進捗状況・結果を報告する。
(平成24年12月定例会の質問)



進む、老朽管の改良

その後（水道課）
平成21年度に作成した老朽管改良計画により、現在は竹荘簡易水道の漏水頻度の高いところから年次的に改良工事を実施している。21年度より26年度末までに、大和簡易水道は542m、竹荘簡易水道は4260mが完了している。

質問
町の水道の配管は老朽化がかなり進んでいると思われるが、管の改修には多くの費用がかかると思われる。今後の対策等について尋ねる。

答弁

高度成長期に整備された水道施設はいずれも老朽化が進み、大規模な改修の時期が来ている。平成22年度より順次改良を進めている。

質問

町の水道の配管は老朽化がかなり進んでいると思われるが、管の改修には多くの費用がかかると思われる。今後の対策等について尋ねる。

質問

今年度、小学1年生に眼科・耳鼻科検診が行われ、好評であったと聞く。今後は小学4年生や中学1年生にも行って欲しい旨の要望があるが、どうか。

答弁

児童の送迎が可能であれば、4年生も実施したい。統合中学での学校医の体制が決まれば中学1年生でも実施したい。

その後（教育委員会）

町内の眼科・耳鼻科検診状況は平成25年から小学校1・4年生を対象に実施している。中学校については、平成28年度から1年生を対象に実施する。



農地中間管理機構の実績は

制度の周知を図り拡大



新谷 富彦

問 農地中間管理機構の稼働初年度の実績が発表されている。

集積面積を14万9000haに設定し、販売に7000ha、貸し出しに2万4000haの合計3万1000haになり、22%の実績。農地集積は2種類で進行していて、集積バンク以外で当事者同志での契約が3万9000haある。低米価の中でも家族農業で頑張っている姿を感じる。新たな問題でT P P交渉

答 山本町長

昨年度から始まった事業で、事業の目的は農地を借りた人とは貸したい人との間に農地中間管理機構が入ること、担い手への農地集積、集約化を推し進め、最終的に担い手の生産コストを削減していく。典型的な中山間地域で、小規模の耕作面積や作業効

率の悪い条件下での農家が、多く、高齢化と担い手不足で経営が難しくなっていることへの対応策である。この制度がなかなか伸びなかった理由は、制度の内容が浸透していないことと思う。また、預けたいが誰かわからない人には、ためらいがあることなど何点か



農地を活かす

答 小室農林課長

平成26年度末現在の県と町の実績は、県が93・7ha、町は22・6haで24%となった。町内の貸借面積は県内で第1位になっている。要因として、県全体の借り受け希望面積が2062haに對

ある。今後も経営転換協力金と耕作者集積協力金、地域集積協力金など農地を機構に貸し付ける方のメリットを十分に説明し、事業を最大限に活用いただき、耕作放棄地を少しでも減らし、農地の保全に繋がればと考えている。

し、貸し付け希望面積が241haと貸し付け希望者が圧倒的に少ない反面、町内の借り受け希望面積48・9haに對し貸し付け希望面積が36・8haとなっている。いずれにしても農業者の高齢化はますます進展していくので、本制度を十分活用し担い手への農地集積化を強力に推進していきたい。貸し借りが全国的に伸びなかった点は、10年以上貸し付けることにより、それを過ぎたら自分の土地が手元に帰ってこなくなるのではないかの心配もあり、借り手の顔が見えない。町ではそれらに加え、既存の受け入れ団体や、大規模農家の後継者不足と許容範囲が限られていること、地域の人材不足による新たな組織ができない。どの分野でも深刻な状況で、何とか抜け出す策を考えたい。

今年度機構を通じた面積は、昨年度同程度か、少し超える程度見込んでいる。

シリーズ

なんと読むのかな？

No.1

大和山（おおわさん）

大和（やまと）地区にそびえる地区の一番高い山（608m）で、「おおわさん」とか「おおわさ」「おおわさま」などと言われている。地名は「やまと」なのに山は「おおわさん」。

一説によると「わ」というのは古来、銅のことである。この山には銅がある。その証拠に山頂には大岩がある。



り、緑青色をしている。この岩を「おおわ」と読んでいて、そのまま山の名前となったのである。また、山裾には小和田城趾がある。

袈裟掛（けさかけ）

上竹地区に今から2千年の昔、弘仁年代（西暦800年）前後、玄賓僧都（げんぴんそうず）がこの地に来られ袈裟をかけて休まれた石があることから、徳をしのんでこの地を袈裟掛けと呼ぶようになった。

玄賓は河内の国に生まれ（一説には北房町小殿）、奈良興福寺で修行し、高德の名声は都でも高く、桓武天皇がご病気の時に召されて平癒祈禱し、効験あらたかに快癒され、喜ばれた天皇は僧都の位を贈られた。その後、奈良から、越前、

伯耆、備中と巡錫し、湯川寺（新見）、松林寺（高梁）など次々と寺を創建し湯川寺で入寂された。



右衛門田（よもんだ）

上竹地区に、よもんだと言われる地がある。中世朝廷の役所に右衛門府（うえもんふ）と称する役所があった。その高位の役人に右衛門督（うえもんのかみ）という役名がある。その拝領した墾田（開墾した田）を「うえもんだ」と呼んだ。長い年月のうちに「よもんだ」と転化し定着している。

「よもんだ」は源平時代、備中守に任命された平師盛の遺領名をして800年間呼び続けられているのである。



読みにくい地名

布郡（ふごおり）

岨谷向（すわたにむこう）

百々（どうどう）

日南（ひな）



（中野 進）

編集後記

雨の多い日が続いています。災害などが心配されます。全国的にも集中豪雨、火山噴火、地震等異常が起きています。

今議会においても、条例制定、一般質問など、日ごろの予防対策が議論されました。地方創生とともに、地域の絆が必要とされる今、安全、安心のまちづくりに努めているところです。皆様のご意見ご感想をお寄せください。お待ちしております。